

円は対米ドルで急伸、一時1米ドル141円台に

- 日銀正副総裁発言を受け日銀の政策変更観測が浮上
- 足元の円高転換は米国の早期利下げ観測が契機に
- 市場はやや前のめり、円高定着との判断は時期尚早

■ 植田日銀総裁発言を受け円相場が急伸

12月7日の円相場は一時1米ドル141円70銭を付けるなど急伸（Refinitiv集計のザラバ、図1）、8日10時現在は143円前後で推移しています。7日に、植田日銀総裁が国会答弁で金融政策運営について「年末から来年にかけ一段とチャレンジな状況になる」と発言、その後官邸で岸田首相と会談しました。前日6日には、氷見野副総裁が「状況をよく見極めて適切に出口を判断」と発言、日銀正副総裁による一連の動きを受け、金融市場では金融政策変更への地ならしとの見方が浮上、早期のマイナス金利解除に向けた思惑が急速に強まった印象です。

■ 円高転換の契機はFRBの利下げ前倒し観測

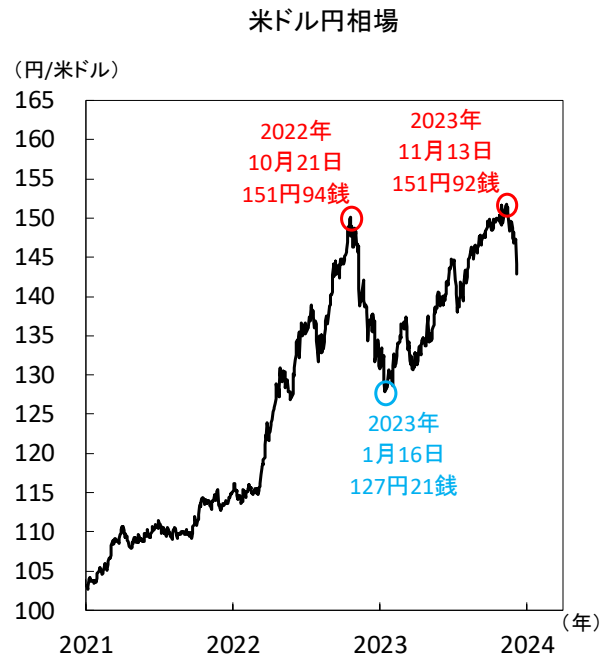
円相場は11月13日の1米ドル151円92銭（Refinitiv集計のザラバ）をピークに円高基調に転じていました。主因は、米連邦準備理事会（FRB）の利下げ前倒し観測の高まりに伴う米金利急低下といえます。足元のFF先物金利を見ると、米利下げが早ければ来年3月に開始、同年末までの利下げ幅は累計1.25%になるとの見方もあります。

2021年以降、日米金利差（10年国債利回り）と米ドル円相場の相関が極めて高いことから、目先の米主要経済指標、例えば11月雇用統計（8日）や消費者物価（12日）から、米労働市場軟化やインフレ鈍化の継続が確認されれば、利下げ期待に伴う米金利先安観を通じ、日米金利差縮小への思惑から円高材料となるでしょう（図2）。

■ FRBと日銀は早期の政策修正に前向きか？

ただし、足元の市場はFRB利下げと日銀マイナス金利解除に前のめりな印象も受けます。振り返れば、FRBはパウエル議長が「利下げは時期尚早」、日銀は植田総裁が「粘り強く金融緩和を継続」と再三くぎを刺す場面が見られていました。円相場は、12・13日の米連邦公開市場委員会（FOMC）、18・19日の日銀金融政策決定会合を控え神経質な動きが予想されます。足元の円高米ドル安が持続的となるかは、FOMC内で利下げ支持が、日銀内で物価目標達成の確度が高まったとの見方が、それぞれ広がりを見せていると確信できるかが焦点です。（瀧澤）

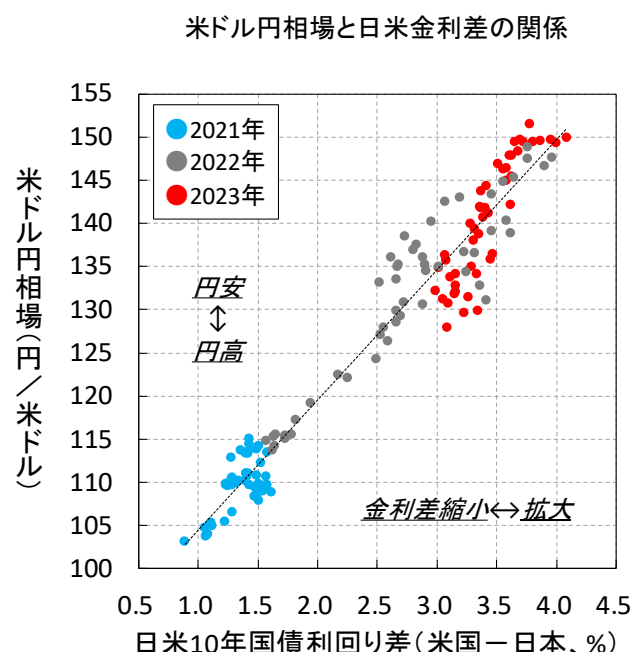
【図1】11月中旬以降、急速に進む円高米ドル安



注）データは終値、凡例はザラバの高安値。
直近値は2023年12月7日。

出所）Refinitivより当社経済調査室作成

【図2】高い相関を見せる米ドル円相場と日米金利差



注）データ対象期間は2021年1月1日～2023年12月1日（週次）。

出所）Refinitivより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会